



## EXHIBITIONS AND PROGRAMS IN 2024

2024 JAN. ---> DEC.

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍の収束にともない、昨年は予想をはるかに上回る来場者を得て、国立新美術館には賑わいが戻ってきました。コロナ禍が収束しつつあるにもかかわらず、混迷を深める厳しい世界の現実を前にして、それでも展覧会を開催できる幸運に感謝しつつ、今年の国立新美術館は、幅広い世代による現代アートの展覧会を積極的に展開いたします。また通年で82団体に及ぶ公募展も、新しい年を迎え本日から開幕いたします。

今年の企画展第1号は、NACT View 04「和田礼治郎：FORBIDDEN FRUIT」です。正面入口に設置される果物を用いた作品が、ご来館の皆様を出迎えます。

コロナ禍中に構想された展覧会「遠距離現在 Universal/Remote」は、対面での打ち合わせが叶わず、リモート会議で準備をすすめました。人々が会うことなくリモートでつながる利便性に隠された現実や世界観のゆらぎなど、本展はデジタル社会を映し出す意欲的なグループ展です。

魅力に富んだ個展も続きます。2021年にコロナ禍により延期を余儀なくされた「マティス 自由なフォルム」も、ようやく実現の運びとなりました。初来日の大作《花と果実》など、切り紙絵の鮮やかな世界をご堪能いただけます。

漫画を中心に活躍し、国内外で絶大な人気を得る女性4人の創作集団・CLAMPのデビュー35周年を記念した展覧会も開催します。映像、ペインティング、立体、デザイン分野を横断しながら旺盛な活動を続ける田名網敬一は今年88歳。初めてとなる回顧展を開催いたします。海外で発表の場を重ねてきた荒川ナッシュ医（あらかわなっしゅえい）と画家たちとの展覧会では、展示空間にパフォーマンスを組み入れ、多彩な人々との共同作業を重視して観者と絵画との関係を問いかけます。

対立や戦争を回避できない日々、私たちは想像力を鍛え、異なる価値観に向き合いながら他者や自然との共生に、より自覚的であるべきではないでしょうか。

国立新美術館は、多様な展覧会や教育プログラムを通して、人々の共感や気づきを引きだし、共生を模索し推進する場としての活動を継続してまいります。

今年も皆様の温かいお力添えをお願い申し上げます。

国立新美術館長 逢坂恵理子

# 遠距離現在 Universal / Remote

3月6日(水) - 6月3日(月)



20世紀後半以降、人、資本、情報の移動は世界規模に広がりました。2010年代から本格化したスマートデバイスの普及とともに、オーバーツーリズム、生産コストと環境負担の途上国への転嫁、情報格差など、グローバルな移動に伴う問題を抱えたまま、私たちは2020年代を迎えました。そして、2020年に始まった国境のないパンデミックにより、人の移動が不意に停止されたものの、資本と情報の移動が止まる気配はありませんでした。かえって、資本や情報の本当の姿が見えてくるようになったと思えます。豊かさや貧しさ。強さと弱さ。私たちの世界のいびつな姿はますます露骨に、あらわになるようです。

展覧会タイトル「遠距離現在 Universal / Remote」は、資本と情報が世界規模で移動する今世紀の状況を踏まえたものです。監視システムの過剰や精密なテクノロジーのもたらす滑稽さ、また人間の深い孤独を感じさせる作品群は、今の時代、あるいはポストコロナ時代の世界と真摯に向き合っているようにも見えます。

本展は、「Pan-の規模で拡大し続ける社会」、「リモート化する個人」を軸に、このような社会的条件が形成されてきた今世紀の社会の在り方に取り組んだ8名と1組の作品をご紹介します。

出品作家：井田大介、徐冰（シュ・ビン）、トレヴァー・パグレン、ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ+ヒト・シュタイエル+ミロス・トラキロヴィチ、地主麻衣子、ティナ・エングホフ、チャ・ジェミン、エヴァン・ロス、木浦奈津子



ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ、ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチ (ミッション完了：ペランジージ) 2019年  
3チャンネル・HDビデオ (カラー、サウンド)、展示空間 (47分23秒)  
ノイエ・ベウリナー・クンストフェライン (n.b.k.) での展示風景  
ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ、ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチの共同制作  
Courtesy the artists; Neuer Berliner Kunstverein, Berlin; Andrew Kreps Gallery, New York; Esther Schipper, Berlin  
Photo © Neuer Berliner Kunstverein (n.b.k.) / Jens Ziehe



エヴァン・ロス《あなたが生まれてから》2023年  
壁紙、サイズ可変  
©Evan Roth  
Courtesy of the MOCA Jacksonville  
Photo by Doug Eng

## 絵のアーティストズ——荒川ナッシュ医 [仮]

10月下旬 - 12月中旬



荒川ナッシュ医《ネメシス・ペインティング（猫なで声のパフォーマンス!）》2022年、デビッド・ズワーナー、ニューヨーク  
撮影：Santiago Felipe  
Courtesy of the artist and David Zwirner

本展は、2000年代以降に主にニューヨークで様々な画家が描いた絵画と、荒川ナッシュ医 (Ei Arakawa-Nash) による展覧会で。様々なアーティストと共同作業を続ける荒川ナッシュは、「私」という主体を再定義し、アートの不確かさをグループ・パフォーマンスとして表現してきました。ストロークはシナリオに、キャンバスは役者に、色彩は音楽へと変容します。コンセプチュアルかつ祝祭的なパフォーマンスによって、鑑賞者は絵画との新しい関係を育みます。

荒川ナッシュ医は1977年福島県生まれ、1998年よりニューヨークを、2019年よりロサンゼルスを拠点に活動するパフォーマンス作家です。パフォーマンスはアーティストをはじめとする多彩な人々との共同作業によって生まれます。彼/彼女らが演者としてパフォーマンスに参加することもあれば、彼/彼女らの作品がパフォーマンスに登場することもあります。荒川ナッシュの作品は、アーティストや鑑賞者との共同作業を通じて成立します。

近年の主なパフォーマンスと展覧会は次の通り。タービン・ホール、テート・モダン（ロンドン、2021年）、アーティストズ・スペース（ニューヨーク、2021年）、ホノルル・ビエンナーレ（2019年）、ラインラント&ヴェストファーレン芸術協会（デュッセルドルフ、2018年）、ミュンスター彫刻プロジェクト（2017年）、ルートヴィヒ美術館（ケルン、2017年）、ベルリン・ビエンナーレ（2016年）、光州ビエンナーレ（2014年）、ホイットニー・ビエンナーレ（ニューヨーク、2014年）、カーネギー・インターナショナル（ピッツバーグ、2013年）、ニューヨーク近代美術館（2012年）



荒川ナッシュ医《メガどうぞご自由にお描きください》2021年、テート・モダン、ロンドン  
撮影：Rikard Österlund  
Courtesy of the artist and Tate Modern

## 企画展

# マティス 自由なフォルム

2月14日(水) - 5月27日(月)

20世紀最大の巨匠アンリ・マティス(1869-1954)。自然に忠実な色彩から解放された大胆な表現が特徴のフォーヴィスムの中心人物としてパリで頭角を現します。後半生の大半を過ごすこととなるニースではアトリエで様々なモデルやオブジェを精力的に描く一方で、マティスは色が塗られた紙をハサミで切り取り、それを紙に貼り付ける技法「切り紙絵」に取り組みます。

本展はフランスのニース市マティス美術館の所蔵作品を中心に、切り紙絵に焦点を当てながら、絵画、彫刻、版画、テキスタイル等の作品や資料、約150点を紹介するものです。なかでも同館が所蔵する切り紙絵の代表的作例である《ブルー・ヌードⅣ》が出品されるほか、大作《花と果実》は本展のためにフランスでの修復を経て日本初公開される必見の作品です。

本展ではさらに、マティスが最晩年にその建設に取り組んだ、芸術家人生の集大成ともいえるヴァンスのロザリオ礼拝堂にも着目し、建築から室内装飾、祭服に至るまで、マティスの至高の芸術を紹介いたします。

主催：国立新美術館、ニース市マティス美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網



アンリ・マティス《ブルー・ヌードⅣ》1952年  
切り紙絵、103×74cm  
オルセー美術館蔵（ニース市マティス美術館寄託）  
© Succession H. Matisse Photo: François Fernandez

## 企画展

# CLAMP 展

7月3日(水) - 9月23日(月・休)

少年漫画、少女漫画、青年漫画、と幅広いジャンルにおいて多様な作品を世に送り出してきた女性4人の創作集団CLAMPによる活動の軌跡をたどる原画展を開催いたします。出版社や掲載雑誌を横断して、デビューから現在までの作品を、漫画原稿を中心に展示します。CLAMPがこれまでの作品を通して年齢・性別・国を超えて読者たちを魅了し、届けてきたメッセージをいま、改めて紐解く大規模展覧会です。

主催：国立新美術館、CLAMP展製作委員会



## 田名網敬一 RETROSPECTIVE [仮]

8月7日(水) - 11月11日(月)

日本人アーティスト、田名網敬一の世界初となる大規模回顧展を開催いたします。本展では田名網の半世紀以上に渡る創作活動を紐解くキーワードとなる「記憶」を辿って、その作品の全貌に迫ります。新作のペインティング、立体作品、アニメーションに加え、60年代後半から70年代初めにかけて制作された貴重なグラフィックデザインやイラストレーション、80年代にかけて制作された極彩色の木彫シリーズの他、近年スタジオで発見された最初期のポップアート作品も展示されます。

主催：国立新美術館、朝日新聞社

協力：NANZUKA



田名網敬一《死と再生のドラマ》2019年  
©Keiichi Tanaami / Courtesy of Nanzuka

### 小企画 NACT View

## NACT View 04 和田礼治郎：FORBIDDEN FRUIT

1月24日(水) - 6月10日(月)

1977年に日本の広島で生まれ、現在はドイツのベルリンで活動する彫刻家・和田礼治郎は、物理的な現象や力学による独自の手法を通じて、宇宙、生命、時間などの形而上学的な主題に取り組んでいます。水面にガラス製モジュールを浮かべた《ISOLA》、果実の腐敗の痕跡が真鍮板の上に抽象的な構図を生み出す《VANITAS》、時間の経過を暗示する液体としてのワインを用いた《SCARLET》、生の果実が空中に浮かぶ《STILL LIFE》などによって、国内外で評価を確立してきました。和田は時に環境に直接的に介入し、多次元的な配置が特徴的なその彫刻作品は、見る者の知覚と作品が置かれた空間に作用を及ぼします。本展において和田は、《FORBIDDEN FRUIT》を展示します。



和田礼治郎《FORBIDDEN FRUIT》2023年、強化ガラス、真鍮、果物、植物  
展示風景：広島市現代美術館  
撮影：表恒匡

## イベントプログラム 講演会、シンポジウム

展覧会の関連プログラムとして、講演会やシンポジウム、アーティストトークなどを開催します。

また、教育普及活動や情報資料収集事業といった、国立新美術館が活動の柱として掲げる分野のシンポジウムやフォーラムを実施し、人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができる場を提供します。



「蔡國強 宇宙遊一〈原初火球〉から始まる」開幕記念  
トークセッション『〈原初火球〉再考』



国立新美術館 連続講座：アートをめぐる場の設計  
第1回「地域と美術館の関わりを考える」

## イベントプログラム ワークショップ

現代美術、ファッション、デザインなどさまざまな分野から講師を招いて、参加者とともに幅広い視点からアートについて考え体験する、アーティスト・ワークショップを開催します。夏休みや大型連休中には、館内のパブリックエリアで誰もが気軽に制作を楽しむワークショップも実施します。また、作品の鑑賞に特化したプログラムも行います。



アーティスト・ワークショップ  
「美術館にお手を触れよう！景色のなかのわたしたちの手」



ワークショップ  
「手ぶらでブラッと工作室 2023～缶バッジで宇宙 You Yeah!～」

## 建築ツアー



こどもたんけんツアー 2023

国立新美術館は、うねうねと波打つガラスカーテンウォールを有する特徴的な外観の建物でも知られています。建築家の黒川紀章氏と株式会社日本設計の共同体による設計の建物の中や外、バックヤードなどを歩いて巡りながら、建築の特徴や機能について紹介する建築ツアーを、2017年より日本設計の協力のもとで実施します。また、小学生を対象とした「こどもたんけんツアー」も毎年開催します。

## ユースプロジェクト



NACT YOUTH PROJECT 2023 新美塾！

2022年より、これからの時代を生きるユースと一緒に「表現」について考え学ぶ場をつくっていく、国立新美術館独自のユースプロジェクトを開始しました。導き手となるアーティストとともに、13歳から18歳までのユースたちが身の周りのものごとを再発見しながら、世界の見方を広げたり、表現することの楽しさを学ぶ、半年間にわたるプログラムです。

## 障がいのある方のためのプログラム



「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」

障がいのある方が、安心してゆっくりと展覧会を鑑賞できるように、休館日の展示室で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を開催します。また、視覚に障がいがあるナビゲーターと一緒に、少人数のグループで語り合いながら作品を鑑賞するワークショップを実施します。

## 学校プログラム



「かようびじゅつかん」

学校・教育機関を対象に「鑑賞ガイダンス」・「施設ガイダンス」を実施します。また、近隣地域の学校を対象とした、休館日の学校招待プログラム「かようびじゅつかん」を開催しているほか、職業インタビューや職業体験、教員研修などの受け入れも随時行います。

## 企画展スケジュール

2024

JAN.	FEB.	MAR.	APR.	MAY	JUN.	JUL.	AUG.	SEPT.	OCT.	NOV.	DEC.
	マティス 自由なフォルム 2月14日(水) - 5月27日(月) 企画展示室 2E										
		遠距離現在 Universal / Remote 3月6日(水) - 6月3日(月) 企画展示室 1E									
						CLAMP展 7月3日(水) - 9月23日(月・休) 企画展示室 2E					
							田名網敬一 RETROSPECTIVE [仮] 8月7日(水) - 11月11日(月) 企画展示室 1E				
									絵のアティテューズ——荒川ナッシュ医 [仮] 10月下旬 - 12月中旬 企画展示室 2E		
NACT View 04 和田礼治郎: FORBIDDEN FRUIT 1月24日(水) - 6月10日(月) パブリックスペース 正面入口											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

## 料金表

展覧会名	会期	当日券料金			
		一般	大学生	高校生	中学生以下
マティス 自由なフォルム	2月14日(水) - 5月27日(月)	2,200円 (2,000円)	1,400円 (1,200円)	1,000円 (800円)	無料
遠距離現在 Universal / Remote	3月6日(水) - 6月3日(月)	1,500円	1,000円	無料	
CLAMP展	7月3日(水) - 9月23日(月・休)	未定			
田名網敬一 RETROSPECTIVE [仮]	8月7日(水) - 11月11日(月)	未定			
絵のアティテューズ ——荒川ナッシュ医 [仮]	10月下旬 - 12月中旬	未定			
NACT View 04 和田礼治郎 FORBIDDEN FRUIT	1月24日(水) - 6月10日(月)	無料			

・いずれも消費税込  
・( )内は前売料金

※1月11日時点での情報です。各チケット情報は後日、国立新美術館ホームページ等でお知らせします。

## 国立新美術館について

---

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース（14,000㎡）を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムの実施に取り組んでいます。

### ご案内

独立行政法人国立美術館 国立新美術館  
〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2  
<https://www.nact.jp>

開館時間：10：00～18：00 会期中の毎週金・土は20：00まで（入場は閉館の30分前まで）  
休館日：毎週火曜日（ただし4月30日（火）は開館）、年末年始

アクセス：東京メトロ千代田線乃木坂駅  
青山霊園方面改札6出口（美術館直結）  
東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分  
都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分  
※美術館に駐車場はございません

一般の方のお問合せ：TEL：050-5541-8660（ハローダイヤル）

## 広報用画像

---

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://forms.office.com/r/qPFBcV8yUY>

プレスリリースお問い合わせ 国立新美術館 広報室 Tel：03-6812-9925 E-mail：pr@nact.jp